



物のまねをする鳥には、どんな種類がいるの

オウムの仲間、キュウカンチョウ、ムクドリ、モズ、カケス

オウムとその仲間であるヨウムやインコ、ムクドリの仲間のキュウカンチョウが、物まねの天才です。ムクドリ、モズ、カケスなども、よく、ほかの鳥の鳴き声をまねします。

オウムの仲間は、野生では、大群で生活しています。群で、たがいに鳴きかわして、仲間であることを確かめています。鳥の種類によっては、自分の巣がおそわれたとき、ほかの強い鳥の物まねをして、敵を追い払うものもいます。物まねは、こんな鳥の習性からきたものです。

人のものまねがじょうずな鳥は、舌が厚くてやわらかく、自由に動くため、人のことばのまねができるのです。キュウカンチョウ、アフリカの森林にすむヨウム、南アメリカのボウシインコ類の順に、人の物まねがじょうずだといわれています。家でよく飼われているセキセイインコも、物まねすることが多いです。

キュウカンチョウ

昔、九官という中国人が、この鳥を日本につれてきたとき、自分の主人の名をさげんだので、キュウカンチョウと名づけられた、といわれています。

どんな音をまねるか

セキセイインコは、ふ化後3か月、キュウカンチョウは6か月ごろから、物まねを始めます。静かな部屋で、とつぜん鳴り出す音などは、よく覚えます。毎日やってくる新聞や牛乳を配達する人の声、イヌの声、げん間のベルの音などをまねします。

(監修・今泉 忠明)

